

# 子育て中のパパたちができること 父親の役割を考える

一般的に、子どもとの付き合いが短時間になりがちなパパですが、育児と真剣に向き合うことで、かけがえない何かを得られるはずですよ。

## 思いやり支え合い 夫婦でよくむく命と絆

育児の担い手はパパとママ。その大変さは、分かち合うことで軽くなり、楽しみへと変わるから不思議です。

しかし実際には夫に「ツライ」と言う「おれも仕事が大変なんだ」と口論になってしまうため、夫へ愚痴をこぼすことすらできないママもいるのではないのでしょうか。心当たりのあるパパは要注意。具体的に解決策が出なくても、大変さを理解してもらえたというだけで、子育てに追い詰められたママの気持ちは和らぐものなのです。「ママは疲れているから休んでおいで」とさりげなく子どもを引き受けるような思いやりのあるパパの一言に、ママは心のゆとりを取り戻せ、子どもを笑顔でよくむくことができるはずですよ。

男性の約3割は育児休業を取得したいという希望を持っていますが、実際の取得率は1・72%にとどまっています。こうした中、昨年6月から「改正育児・介護休業法」が施行。男性が育児休業を取得しやすい社会へと、大きな一歩を踏み出しました。また、これに合わせて厚生労働省が「イクメンプロジェクト」を開始（イクメンとは子育てを楽しむ、自分自身も成長する男性のこと）。男性の育児休業取得率を、平成29年度までに10%に上げることを目標とし、実現に取り組んでいます。

## 男性の育児参加が あたりまえの社会に

育児をしながら働く人が仕事と生活を両立できるよう、さまざまな法律や制度が設けられています。依然として働く女性の約6割が、第一子出産後に仕事を辞めている現状です。また、



### 法律で定められた両立支援制度の概要

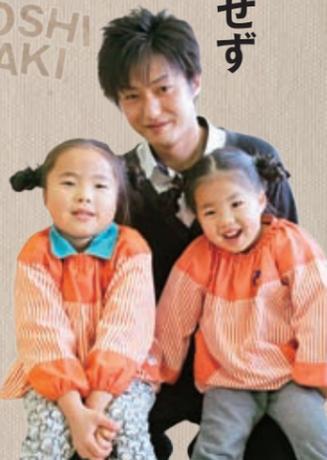
	妊娠	出産	満1歳	満3歳	小学校入学
母性健康管理 男女雇用機会均等法	産前休暇 (6週)	産後休暇 (8週)	育児時間 労働基準法		
改正育児・介護休業法			育児休業 (子どもの満1歳の誕生日の前日まで)	改正	
			・時間外勤務の制限 …1か月24時間、1年150時間が上限 ・深夜業の制限 …深夜(午後10時～午前5時)の労働制限 ・子の看護休暇 …1年に5日(子が2人以上なら1年に10日)	改正	
			・育児短時間勤務制度 …短時間勤務(原則6時間)措置 ・所定外労働の免除 …所定外労働(残業)免除	改正	

※男女とも、仕事と育児を両立させるための措置を請求することができます。法律を上回る内容の取り決めをしている会社もあるので、夫婦それぞれの会社の制度がどうなっているのか、確認しておきましょう。

### interview#01

## 「子育て」とは意識せず できることだけを やってきました

岩崎 聖さん(上野)



子どもへの接し方も、特に赤ちゃんのころは分からなかったんですね。なので、自分には妻の手助けぐらいのことしかできないって思ってた。それからはずっと「せめて自分にできることぐらいはやろう」という気持ちでやってきました。そういう思いがあるか無いか、日常のちょっとした気づきにつながり、行動として表れるんじゃないかと思っています。最初はできなかったことも、やっているうちにだんだん慣れてきて「自分にできること」は、わずかですが増えてきたと思います。

娘たちには、思いやりのある優しい子になってほしいと願っています。ただ、子は親の姿を見て育つので、親である自分たちが日ごろから思いやりを持って、家事や育児を互いに協力し合っていないと、説得力ないですよ。子どもがのびのび元気に育つよう、父親は父親なりにできることをして、家族を支えていけたらいいんじゃないかと思っています。

仕事の朝は2人の娘を起こして一緒に用意し、保育所へ送って行くのが日課です。仕事は平日しか休みがとれないことが多いのですが、保育所のイベントがある日は、1か月前から職場に休みを申請し、できる限り妻と2人で参加できるように調整していますね。保育所で見ると子どもたちは、家とはまた少し違って、ここまで成長したんだなと感慨深いものがあります。

家では、洗濯や食器洗いなど、できる時は普通にやっていますが、帰宅が遅くてできない日も多いし、たぶんほかの家庭と同じですよ。特別なことは何もやってないんです。自分が22歳の時に長女が生まれたのですが、逆に「自分は家族のために何かできているのかな」と思うことのほうが多かったですね。共働きだし、妻ばかりに苦勞をかけたくないという気持ちは当然あったのですが、かといって料理ができるわけでもないし、小さい



## ふくちの現役パパ2人が答える → 〈 子育てへのかかわり方 〉

### interview#02

## 協力して家事を終わらせ 家族の憩いの時間を 大切にしています

今村 哲哉さん(弁城)



家族はわたしと妻と娘が2人。わたしは職場が少し遠いため、朝はあまり子どもに会えないかわりに、夜、意識的に家族との時間をつくらうと思っています。例えば、夕食の準備を一緒にしたり、妻が洗濯をしている間に自分が食器洗いをしたり。夫婦で協力して要領よく家事を終わらせ、その後子どもが寝るまでの約1時間が、家族の憩いの時間です。コーヒーを飲みながらみんなでゆっくり話ができるこの時間を、わたしは大切にしたいと思っています。

休日は、車いすで行けるショッピングモールなどによく行きます。妻の父が半身不随のため、毎日介護している妻の母が少しでも気晴らしできるように、自分が車いすを押し、妻と母と一緒にお店をまわって、ショッピングを楽しんでいます。また、休日は友だちから野球に誘われることもあります。やはり家族と過ごすのが一番なので、断っていますね。

最近、生後4か月の娘がたまに笑うようになったんです。娘が笑うとみんなが笑顔になり、家族が一つになれて幸せを感じる瞬間です。自分の時間を子育てに割くことを嫌がる人もいるかもしれませんが、その代償以上にかけがえのないものを得られると、わたしは確信しています。

また、仕事をするお父さんたちは、育児にかかわりたくても時間が無いという現実があるかもしれません。それでも、その気になれば、できることは何か必ずあるはずなんです。外で話を聞いていると、夫婦2人の子どもなのに、わりとお母さんだけに押しつけてしまっている人が多いように感じます。わたしは、家族の誰か1人に負担がかかっていると「みんなが笑顔」の家庭は築けないと考えるので、家事や育児の苦勞も喜びも、夫婦で分かち合いたいと思っています。結局、育児は「できない」ではなく「やるかやらないか」。気持ちの持ち方次第だと思います。